

旭化成が4連覇

ニューイヤード伝 最多25度目V

元日恒例の第64回全日本実業対抗駅伝競走（ニューイヤード伝）は1日、前橋市の群馬県庁を発着とする区間100kmのコースに37チームが出場して行われ、旭化成が4時間46分7秒の大会新記録で4年連続25度目の優勝を挙げ、チームが持つ大会の最多優勝回数を更新した。（39面に関連記事）



2位は2分29秒差でトヨタ自動車。3位はホンダ。両チームも従来の大会記録を上回った。
旭化成は6区（12・13）の小野知大が区間新記録の快走でトヨタ自動車を逆転して首位を奪い返し、そのまま逃げ切った。

1位でゴールする旭化成のアンカー 鏑坂哲哉（1日、群馬県前橋市）



4連覇し、胴上げされる旭化成の西政幸監督（1日、前橋市）

「おめでとう」「お帰り」

約700人が出迎え、祝福

JR延岡駅前

旭化成陸上部はレース 市民ら約700人から翌日の2日、優勝旗や優勝カップを掲げて延岡市に凱旋がいせしめた。選手たちはJR延岡駅前で開かれた出迎え式にそのまま出席、駆け付けた戦士は万来の拍手の中、1列になって特設された会場に入場。代表して西政幸監督と大六野秀敏選手が、延岡ジュニア陸上クラブの在原芽沙さん（旭小6年）と天窪明日香さん（同）から花束を受け取った。ニゲ塚理事長は「選手やコーチ・スタッフだけでなく、宮崎、延岡の皆さんがワンチームになったから4連覇できた」と



延岡ジュニアの子どもたちから花束を受け取る西監督（左）と大六野選手



V4を達成した旭化成陸上部と読谷山延岡市長ら

髪を傷めない 自然の恵み

あす、日曜日は休日
冬田中あらはに白き路ゆゆくしての浜にあがる浪見「山桜の歌」(大正十七年五月刊)十年の冬十七月の作。静浦附近と願沼津の海岸を東回りの作。わが家のあまたありと田中の路は雨れた近「浪の穂や音に」この海のりて真白き静浦より三津渡へ」と随筆 駿河湾帯の風光には三浦御成橋の下から午前午後二回乗合が出る。狩野川の川を出ると、すぐの運ぶ橋な牛臥山を左に、静の山麓に在してある小さな舟簡所に寄って三津渡を終るまで時間半、舟賃二十五銭、最も簡物が出るわけであるとのる。

2020 / X